

北斎の作品を鑑賞しよう (図画工作)

熊本市立飽田東小学校 前田康裕

■ 授業のねらい

この授業では、Adobe Photoshop Elements を使って、絵の一部分をわざと消して提示しました。そして、その部分を想像して絵に表すという活動を取り入れます。このような活動を通して、作者の立場に立って構図を考えさせ、美術作品の素晴らしさを味わわせることをねらいとしています。

■ デジタルコンテンツからの「子どもたちの学び」

以下の4つの静止画コンテンツを使います。

図1、富士山と人物を消した絵 (hokkusai1) 図2、人物を消した絵 (hokkusai2)

図3、もとの絵 (hokusai3)、 図4、1の絵ともとの絵の比較(hokusai4)

また、ワークシート(hokusaisheet)を印刷しておきます。子どもたちは図1と図2を見た後に、どのような絵が消されたのかを考え、実際にワークシートに絵を描きます。そして実際に描かれたものを比較して、その面白さを実感することができます。

■ 教材作成のポイント

「一部を消す」という作業は、知的好奇心を高めるための教材を作成する一つの手法です。絵の一部を消す方法は、D-project サイト「マニュアル実践活用プロジェクト」の「ものを消してしまおう」をご参照下さい。

http://test.d-project.jp/2004/manual/download_index.html

授業の最後は、葛飾北斎の他の作品も見せていくことにしました。「浮世絵サロン」というサイトでは、北斎の様々な作品が紹介されていますので、教材作成の役に立つことでしょう。

<http://www.aurora.dti.ne.jp/~k-manabe/uki.htm>

■ 授業の流れ

1 背景を考えよう

まず、図1を見せて、感想や気づいたことを問います。

子どもたちは「迫力がある」「見たことがある」などと言いました。そこで次のように問います。

実は、この絵は本物とは違うところがあります。わざと背景を消したのです。背景には何が描かれていたのでしょうか？



図1

子どもたちからは「えーっ？」という声が聞かれます。

そこで、ワークシート1を配布して、想像で描くように指示します。教師は子どもたちを回って、子どもの作品をデジタルカメラで撮影して投影していきます。子どもたちの面白いアイデアを共有するためです。



ワークシート1



子どもたちの作品例

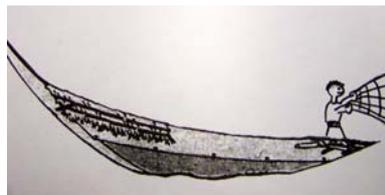
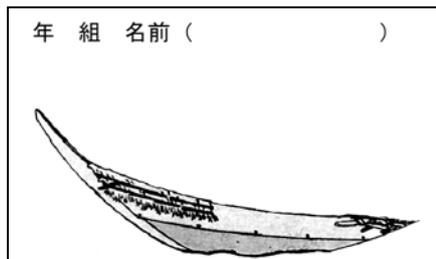
2 人物を考えよう

そこで、2枚目のページを見せます。

「思ったよりも富士山が小さい」という感想が返ってきました。さらに問います。

実は、まだ本物ではないのです。船の上に人がいたのです。どのように人がいたのでしょうか？想像してワークシート2に描きなさい。

これも小どもたちから「えーっ」という声が返ってきました。背景の時と同様に、子どもたちの作品をデジタルカメラで撮影して投影します。様々な「人」がいて、教室には笑い声が起こります。



子どもたちの作品例

ワークシート2

3 説明を聞こう

そこで、いよいよ図3を見せます。子どもたちは興味津々です。船の上に小さくなって伏せている人々がいるのですが、小さくてよく見えませんので、図4を見せて確認をします。

そして図5（図3と同じ）にすすみます。

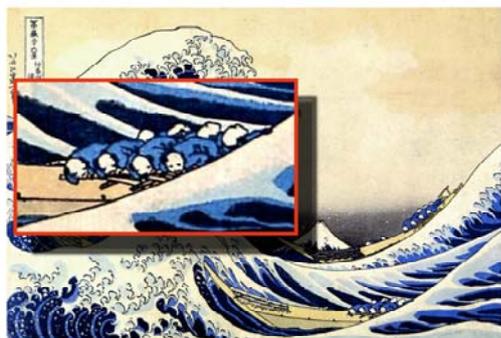


図3、図5

そして、図6を見せます。これは、図1と図3を並べて配置してあり、二つの絵の比較ができるようになっています。

そして、次のように問います。

1枚目と3枚目ではどう違いますか？



葛飾北斎 「神奈川沖浪裏」

図4

子どもたちからは「富士山や人がいた方が、波が大きく見える」といった意見が出ました。そこで説明をします。

絵には中心となる「主役」と、それをひきたてたり、絵に変化をつけたりする「脇役」があります。

そして、北斎の他の作品として「富嶽三十六景」の中から数枚を提示して、自由に感想を述べられるようにしました。

最後に「今日の授業の感想」を書かせると「面白かった」「他の作品も見たい」という感想が多く見られました。子どもたちは、「主役と脇役」という一つの視点を得たと言えましょう。



主役だけ

主役と脇役

図6